地域　担い手　サポ・センだより

JAグループ山形

山形で農業お手伝い

東京で西村山移住就農相談会

東京都内で1日、「やまがたハッピーライフカフェ」と銘打ったセミナーが開かれた。県村山地域移住交流推進協議会とNPOふるさと回帰支援センターが共催。農業を営みながら山形で暮らす魅力を首都圏の移住希望者らに売り込んだ。

西村山5市町の他、大江町就農研修生受入協議会「OSIN(おしん)の会」も初めてブースを設けた。

OSINの会は、これまで受け入れた農業研修生のうち、9人の移住就農をかなえ、9割超の高い就農定着率を誇る。だが、これまで参加していた首都圏や仙台での年5回の「新・農業人フェア」が今年から年2回に減り、移住就農をPRする新たな機会を模索。そこでJAさがえ西村山、JAグループ山形地域・担い手サポートセンター、県農業経営・担い手支援課が連携。実現に一役買った。

ブースには、横浜市の49歳の男性会社員が訪れた。OSINの会の渡辺誠一会長は「全国でも数少ない、受け入れ農家主体の組織であることや面倒見の良さをアピールした。ただ参加者が少なく、PRの在り方や定期開催の必要性など、課題も見えた」と話す。

セミナーでは、神奈川県から西川町に移住して農業を始めた鈴木真一郎さんが、山形で農業で暮らす魅力などを伝えた。

県内の新規就農者は、2010年度から7年連続200人超えが続き、16年度調査では1985年以降、最高となる300人に。

県外から県内に移住して農業を始める人も少しずつ増えている。県農業経営・担い手支援課の聞き取り調査では、移住後しばらくして就農した人を含め、県内への移住就農者は15年が31人、16年は30人にも上る。

首都圏での就農相談会など、就農の動機付け段階からのオール山形による呼び込み支援にも期待が集まる。

山形県内への移住就農相談に応じるOSINの会の担当者ら

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。